

大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の 整備に関する計画について（概要）

2025年5月9日

I R 区域整備の意義・目標／位置・規模等

I R 区域整備の意義・目標

意 義

◆大阪の更なる成長に向けて

- 成長産業である観光分野の基幹産業化
- ポストコロナにおける観光需要の回復・反転攻勢に転じる取組み
- 世界中から新たに人・モノ・投資を呼び込む I R の導入は不可欠

目 標

◆世界水準のオールインワンM I C E 拠点の形成

- 大阪・関西の経済成長を牽引するM I C E の新たな誘致・開催 等

◆国内外の集客力強化への貢献

- 大阪における訪日外国人旅行者数や旅行消費額の更なる増加 等

◆日本観光のゲートウェイの形成

- 大阪 I R への来訪者を各地に送り出し、I R 立地に伴う集客効果を各地に相乗的に波及

長期・安定的な事業実現

◆ 事業期間：35年間（延長30年間※）

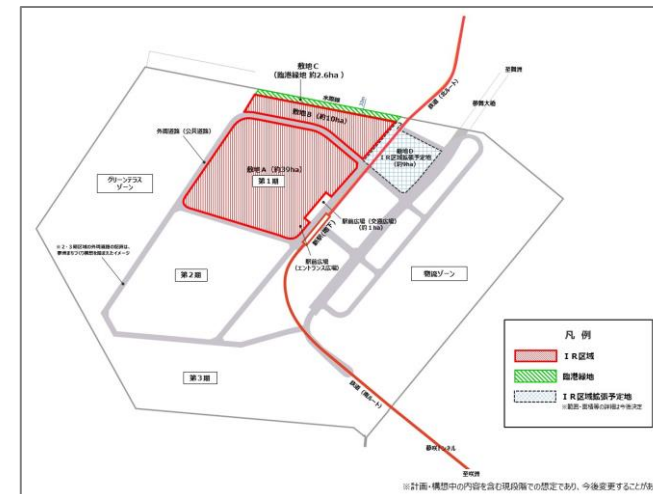
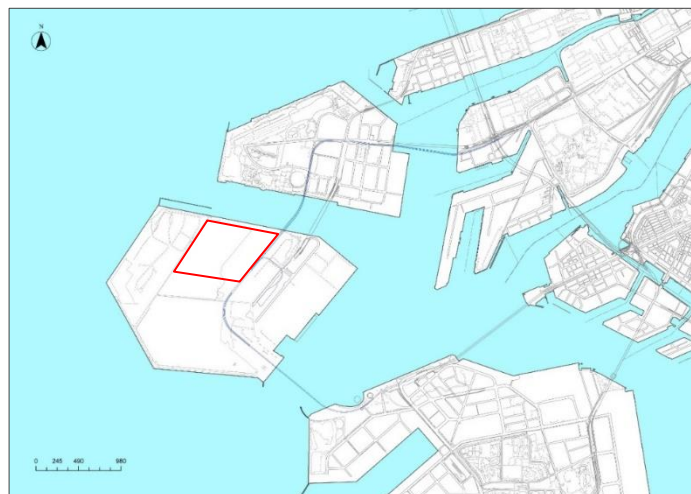
※ I R 事業者は事業期間の満了にあたって延長を申し出ることができ、大阪・関西圏の持続的な経済成長や国際観光拠点の強化等の観点等から、事業の継続を前提に、大阪府・市及び I R 事業者で条件等（延長後の投資計画を含む。）を協議

◆ 適切なガバナンス機能を確保し、円滑かつ確実な事業実施の確保と長期間の安定的・継続的な事業の継続を図る。

- I R 事業者によるセルフモニタリング
- 大阪府・市によるモニタリング
- 大阪府・市及び I R 事業者による会議体の設置
- I R 事業評価委員会の設置
- 金融機関との連携 等

I R 区域の位置・規模等

【 I R 区域の位置（広域図・周辺図） 】



I R 事業の名称		大阪・夢洲地区特定複合観光施設設置運営事業（通称：大阪 I R）
I R 施設の名称		M G M 大阪
I R 施設の所在地		大阪府大阪市此花区夢洲中 1 丁目の一部
土地概要	敷地面積	約49.2万㎡（敷地A及びB）
	都市計画区域/用途地域	市街化区域/商業地域
	建ぺい率/容積率	80%/400%
	防火地域	準防火地域

土地使用権原等

- ◆ 契約手法：事業用定期借地権設定契約（借地借家法第23条第1項）
- ◆ 賃貸借期間：35年間
- ◆ 賃料：428円／㎡・月額
- ◆ I R 事業者は I R 区域を一体的に管理（敷地 A 及び B 間に立体横断施設を設置し、区域全体の土地利用上並びに I R 施設間の回遊性や機能上の一体性及び連続性を確保）

I R 区域と国内外の主要都市との交通の利便性

I R区域の交通の利便性

- ◆大阪は、西日本の玄関口。空路、鉄道、高速道路、航路と全ての主要交通網が接続している交通の要衝
- ◆大阪 I R は、全ての主要交通拠点が半径30km以内に集積している臨海部の「夢洲」に位置し、利便性の高いアクセスが可能

国際アクセス

◆海外からのアクセス

- 充実した国際ネットワークを有する関西国際空港により、アジア諸国等との容易なアクセスが可能
- 上海・釜山から、大阪港国際フェリーターミナルに定期便が就航

国内アクセス

◆近畿圏外から大阪へのアクセス

- 関西 3 空港の国内線ネットワークにより、各都市からのアクセス可能
- 東海道・山陽新幹線、北陸、山陰、南紀方面へ特急列車が運行
- 名神高速道路・中国自動車道等の高速道路ネットワーク
- 大阪港を起点とした、船舶ネットワーク 等

域内アクセス

◆I Rへのアクセス

- 大阪メトロ中央線延伸により、大阪市内の主要駅からのアクセス確保
- 夢咲トンネル、夢舞大橋の 2 ルートを確保するとともに、夢舞大橋では 6 車線化工事（現在は 4 車線）等が事業中
- 大規模なバスターミナル及び駐車場の整備や、夢洲北側護岸には係留施設を整備

交通ネットワーク

◆航空ネットワーク

- 関西国際空港
 - ・世界75都市、国内17都市とのネットワークにより、年間約3,200万人の航空旅客を受け入れ
- 大阪国際空港
 - ・国内26都市とのネットワークを有し、年間約1,650万人利用
- 神戸空港
 - ・国内 7 都市（日33便）を結び、年間約336万人が利用

◆鉄道ネットワーク（新大阪駅）

- 東海道・山陽新幹線
 - ・1日あたり東京駅方面へ約120便、博多駅方面へ約70便が運行
 - ・東京駅から約 2 時間30分、名古屋駅から約50分でアクセス 等

◆高速道路ネットワーク

- 大阪発着での自動車による効率的な移動が可能
- 名古屋まで約180km（約 3 時間）、京都まで約60km（約 1 時間30分）等



交通アクセスの現状と渋滞対策

- ◆夢洲地区への訪問者増加等に対応するため、地下鉄や外周道路・高架道路の整備、既設道路等の改良等、交通インフラ整備を行う予定
- ◆交通基盤整備(バス及び海上アクセス拠点)、駐車場の確保等のハード対策及び自動車利用の抑制、ピーク時需要の削減等のソフト対策も実施予定

※航空ネットワークの利用者数については、2019年実績

大阪IRのコンセプト

基本理念

- ◆あらゆるものを「結ぶ」起点となる
 - 「人・モノ・投資、情報・才能」
 - 「大阪・関西・日本の過去、現在と未来」
 - 「大阪・関西と日本と世界」

コンセプト

- ◆“結びの水都”
 - 大阪・関西を世界とつなぐゲートウェイ
 - ここにしかない最高のエンターテインメント
 - 未来を創出するイノベーション
 - 大阪の発展を象徴する水

ビジョン

- ◆“WOW” N e x t
 - 特徴的な建築やマスタープラン
 - 世界トップクラスのエンターテインメント
 - 最高級の宿泊施設
 - 日本最大級のM I C Eコンプレックス

M G M が展開する
世界最先端の“WOW”



大阪・関西が誇る観光・産業・
文化にわたる魅力・ポテンシャル

- ◆世界最高水準の成長型 I R を地域とともに実現する
 - 地域とともに新たなビジネスを生み、来訪者を各地につなげるゲートウェイとなり、地域に波及効果をもたらすことで、持続的な経済成長につなげる
- ◆観光産業の高度化、持続可能性の向上に寄与する
 - 送客の促進、受入環境の整備支援等を通じて、観光振興の波及につなげる

コンセプトの具現化

結びの水都

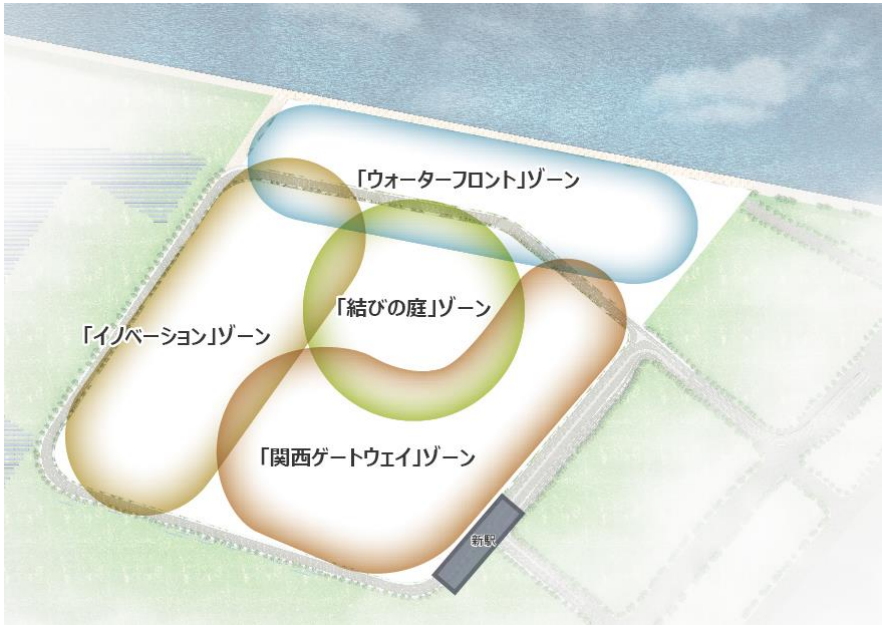
- ◆水都大阪が育んだ伝統・文化・精神を継承した施設とコンテンツ
- ◆水やみどりの要素を随所に取り入れたランドマーク性のある空間形成
- ◆先端技術の導入による先進的で非日常的な空間の提供

土地利用方針

コンセプトに基づく夢洲のポテンシャルを最大限に活かしたゾーニング

ゾーン	方向性	主な配置施設
「関西ゲートウェイ」ゾーン	駅前の交通拠点を起点に、I R 内部へ誘引するダイナミックな空間構成とする	関西ツーリズムセンター M G M 大阪 M U S U B I ホテル
「イノベーション」ゾーン	新たなビジネスの創出を促す、付加価値創造のための拠点とする	M I C E 施設
「ウォーターフロント」ゾーン	豊かな水の風景によるうろおいと安らぎを与え、多くの人が集い、憩う空間とする	フェリーターミナル 海辺景観を活かした公園
「結びの庭」ゾーン	ゾーンを超えた有機的な施設間連携を増大させる	オープンスペース 商業店舗等

【ゾーニングイメージ図】



I R事業者／事業実施体制等

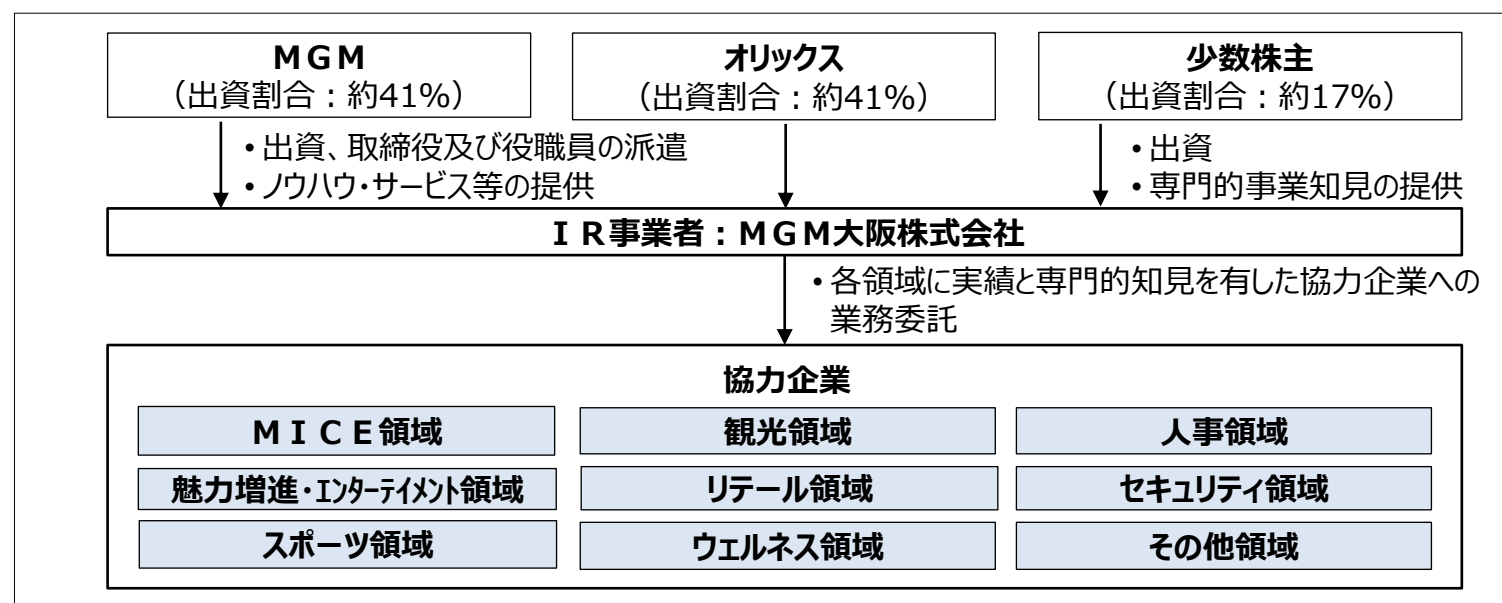
I R事業者（概要）

名称	M G M大阪株式会社
本社	大阪府大阪市
構成員	◆中核株主（２社） 合同会社日本MGMリゾート オリックス株式会社 ◆関西地元企業を中心とする少数株主（22社） 岩谷産業株式会社 大阪瓦斯株式会社 株式会社大林組 関西電力株式会社 近鉄グループホールディングス株式会社 京阪ホールディングス株式会社 サントリーホールディングス株式会社 株式会社JTB ダイキン工業株式会社 大成建設株式会社 大和ハウス工業株式会社 株式会社竹中工務店 南海電気鉄道株式会社 西日本電信電話株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社 パナソニックホールディングス株式会社 阪急阪神不動産株式会社 阪和興業株式会社 丸一鋼管株式会社 三菱電機株式会社 レンゴー株式会社

事業実施体制

- ◆ グローバルかつ大阪・関西に根差したコンソーシアム
- ◆ 地元企業の専門的な知見を活用しつつ、M G M・オリックス共同で本事業を全体統括・推進
- ◆ I RリーディングカンパニーであるM G Mのノウハウに加え、M I C E・魅力増進・観光・エンターテインメント等各分野で豊富な実績を持つ協力会社とともに、国際競争力を有するI R実現

- ※ MGMリゾート・インターナショナル（合同会社日本MGMリゾートの完全親会社）の事業実績
- ・ラスベガスに本社を置くI R運営会社
 - ・30年以上の歴史を持ち、世界で31のI Rブランドを開発・運営
 - ・ラスベガス最大のM I C Eオペレーター、年間宿泊需要250万室を創出、年間9,000以上のショー・イベントを開催し、エンターテインメント分野においても豊富な事業実績
- ※ オリックス株式会社の事業実績
- ・京セラドーム大阪や全国でのホテル・温泉旅館、M I C E施設等の集客施設の開発・運営
 - ・関西３空港運営やグランフロント大阪（うめきた）開発・運営といった官民連携事業の実績



コンプライアンス確保・反社会的勢力の排除

- ◆**コンプライアンス確保のための体制・取組み**
- 全部門における法令順守を徹底・主導するコンプライアンス部門や、外部委員で構成するコンプライアンス委員会等を設置し、複層での推進体制を構築
 - コンプライアンス計画・行動規範等の策定、従業員に対する研修・教育訓練の実施
- ◆**反社会的勢力排除の徹底**
- 大阪府・市、大阪府警察等と連携するとともに、データベースを作成・維持管理し、役員・株主・出資者・従業員・取引先等について十分な適格性審査を実施

初期投資額	
◆ 約 1 兆2,700億円 （税抜き）	
建設関連投資：約9,600億円、その他初期投資額：約3,100億円	

収支計画	
年間売上	約5,200億円 ノゲーミング：約1,000億円（約20%） ゲーミング：約4,200億円（約80%）

資金計画	
◆ 資金調達額：約1兆2,700億円 （税抜き）	
➤ 出資金額：約7,400億円（約58%）	
M G M約41%：オリックス約41%：少数株主約17%	
※各少数株主の出資割合は5 %未満	
➤ 借入金額：約5,300億円（約42%）	
プロジェクトファイナンスによる借入（株式会社三菱UFJ銀行・株式会社三井住友銀行をはじめとする融資団との間で融資契約を締結）	

運用 約1兆2,700億円	調達 約1兆2,700億円		
初期投資額 約 1 兆2,700 億円	借入 約5,300億円	出資割合	
	出資 約7,400億円	合同会社日本M G Mリゾート（約41%）	
		オリックス株式会社（約41%）	
		少数株主（約17%）	

I R 事業の工程	
◆ 開業時期：2030年秋頃	
◆ 大阪府・市及び I R 事業者は、世界最高水準の I R 及び早期開業による速やかな事業効果の発現が実現できるよう、公民連携して取り組む。	
※ 工程が最も早く進捗した場合の想定。なお、新型コロナウイルス感染症の収束状況、I R 事業の税制上の取扱い及びカジノ管理規制の整備状況、夢洲特有の地盤性状への対応状況、工事環境等によっては、I R 事業の工程は1 ～ 2 年程度後ろ倒しとなる可能性がある。	

大阪 I R 事業実現に向けた課題	
◆ I R 事業の実現には、現時点での不確定事項・課題（新型コロナウイルス感染症の影響、国の詳細制度設計、夢洲特有の課題等）の解決が必要不可欠である。	
◆ 大阪府・市及び I R 事業者は、これら課題の解決と I R 事業の実現に向け、引き続き公民連携して取り組む。	
＜事業実現に向けた主な課題＞	
➤ 新型コロナウイルス感染症の影響	
・ 新型コロナウイルス感染症が収束し、国内外の観光需要の回復に見通しが立つこと。	
・ M G M・オリックスについて、投資実行に際しての深刻な財務状態の悪化が生じていないこと。	
➤ 国の詳細制度設計（I R 税制・カジノ管理規制等）	
・ I R 税制について、早期に法制化が行われ、運用面含めて国際標準・国際競争力が確保されること。	
・ カジノ管理規制及び区域認定制度について、各種基準が早期に制定・明確化され、運用面を含めて国際標準・国際競争力が確保されること。	
➤ 夢洲特有の課題	
・ 土壌汚染・液状化等への適切な対応を含め、I R 事業用地の適性が確保できること。	
・ 円滑な工事遂行が可能な工事環境が整うこと。	

I R施設の規模

I R施設の規模			
区分	施設種別	延床面積	施設構成・規模
1号施設	国際会議場施設	約3.7万㎡	最大会議室 6,000人以上収容
2号施設	展示等施設	約3.1万㎡	展示面積 2万㎡ 関西イノベーション・ラボ
3号施設	魅力増進施設	約1.1万㎡	ガーデンシアター 関西ジャパンハウス 三道体験スタジオ ジャパン・フードパビリオン 関西アート&カルチャーミュージアム
4号施設	送客施設	約1.3万㎡	関西ツーリズムセンター バスターミナル、フェリーターミナル
5号施設	宿泊施設	約28.9万㎡	客室 約2,500室 レストラン、プール、フィットネス 大浴場、バンケット 等
6号施設	エンターテイメント施設	約1.3万㎡	夢洲シアター 約3,500席
	飲食・物販・サービス等施設	約31.0万㎡	飲食施設、物販施設、駐車場、エネルギーセンター 等
カジノ施設		約6.5万㎡	※うち、カジノ行為区画は総延床面積の3%以内
総延床面積		約77万㎡	

国際会議場施設

◆施設の種類、規模

- M I C E 等主催者のニーズに応じて多用途に利用可能な会議室を一体的に配置し、国際会議の用に供する全ての室の収容人員の合計が概ね12,000人以上となる国際会議場施設を整備

区画の名称	会議室の区分	設置する会議室	面積
最大会議室	グランドボールルーム	6,000人以上を収容できる最大国際会議室	約6,480㎡
中小会議室	ボールルーム	中規模のボールルーム	約6,480㎡
	多目的室	中規模の会議室	
	ボードルーム	小規模の会議室	
	V I P 会議室	小規模のV I P 会議室	
合計			約12,960㎡

◆設置方針

- 中小会議室を一か所に配置することで、来場者の移動負荷の軽減のみならず、効率的なサービス提供可能
- 可動間仕切りを導入する事に加え、照明・空調設備、天井吊物機構等を充実させることで、多彩なイベントの同時開催にも対応
- 各国との首脳級会合、閣僚級会合等の重要な国際会議等に対応可能な機能を整備
- M I C E 施設内にM I C E 専用のキッチンを設置し、飲食ニーズを伴う多様なM I C E イベントの同時開催に対応

◆運営方針

- 飲食サービスやエンターテイメントをはじめ、ウェルネスやサステナビリティを意識したプログラムなど、M I C E 来場者に喜ばれる様々なサービスを提供
- オールインワンM I C E 拠点の要となり、宿泊施設、飲食施設、エンターテイメント施設等の大阪 I R 内の各施設と連携し、来場者に付加価値の高いサービスを総合的に提供

展示等施設

◆施設の種類、規模

展示ホールの 名称	面積・仕様					
	面積	ホール間 間仕切り	アンカー ボルト	床耐荷重 (ピット部 分除く)	高さ (梁下)	
	ホールA	約10,000㎡	可動式	打設可能	2t/㎡以上	8m以上
	ホールB	約10,000㎡				
	合計	約20,000㎡				

◆設置方針

- BtoBの展示会に加え、BtoCの見本市やフェスティバルなど様々なイベントの開催に対応
- 展示ホールごとに可動間仕切りを設置し、さらに、照明・空調設備、天井吊物機構、電源等を充実させることで、多彩なイベントの同時開催に対応
- 大規模なM I C E イベントにおける一体利用を想定し、M I C E 施設に隣接して屋外イベントスペースを配置
- オンラインイベントの同時開催や、来場者の利便性に対応すべく、安定性・実用性の高い通信環境を整備

魅力増進施設

◆日本の魅力の創造・発信

- コンテンツの種類・特性に合わせた5つの魅力増進施設の設置
- I R内の他施設や敷地全体を活用した日本の魅力の創造・発信
- 送客施設と連携した効果的な広域観光振興の促進

送客施設

◆日本観光のゲートウェイの形成

- 最新の観光情報を紹介する質の高いショーケース機能
- 旅行の企画・提案・手配をワンストップサービスで提供するコンシェルジュ機能
- 夢洲から大阪内外へのアクセスを強化する交通機能

魅力増進施設と送客施設の連携により
大阪I Rから日本各地に観光客を送り出す

施設名称	種類	コンテンツ内容
ガーデンシアター	劇場	・伝統芸能に新たな表現手法を取り入れた革新的なコンテンツや体験型のイベントといった多彩なプログラムを提供
三道体験スタジオ	その他の施設 (伝統文化等の展示場)	・華道・茶道・香道等の日本の伝統芸道を先進的なテクノロジー等を用いた演出によって表現し、五感を通じた体験として提供
ジャパン・フードパビリオン	レストラン (飲食施設)	・大阪・関西の幅広く奥深い食文化の魅力を伝えるため、気軽に楽しめるフードホールから食の奥深さを味わえる高級店に至るまで多彩な飲食施設を配置
関西ジャパンハウス	その他の施設 (工芸体験・物販施設)	・工芸品の制作過程見学や工芸品の制作体験プログラム等、日本の伝統的な工芸文化の魅力に触れる機会を提供
関西アート&カルチャーミュージアム	美術館	・古典的な芸術作品からメディアアート等の現代的な作品まで幅広い作品を取り扱い、国内外の文化機関等と連携し、企画展やラーニング・プログラム等、幅広い文化体験の機会を提供

施設名称	機能	
関西ツーリズムセンター	ショーケース機能	・映像型ショーケース (各地の魅力を伝える臨場感ある映像の投影) ・地域・テーマ別ショーケース (地域別・体験テーマ別の観光体験を紹介) ・ポップアップ型ショーケース (自治体・DMO向けポップアップスペースの提供) ・メディアウォール型ショーケース (観光情報に演出を施した画像や動画を配信)
	コンシェルジュ機能	・A I コンシェルジュ (A I による旅行相談端末) ・総合コンシェルジュ (対面型でサービスを提供する旅行相談窓口) ・プレミアムコンシェルジュ (V I P 向けの旅行相談窓口)
その他	交通機能	・バスターミナル (関西ツーリズムセンターに併設) ・フェリーターミナル (係留施設を併設)
	多言語対応	・英語・中国語・韓国語を中心とした文字表記及び対人の多言語サービスの整備 ・ピクトグラムの表示、写真・動画の活用等による情報提供手法の工夫

宿泊施設

- ◆利用者需要の高度化・多様化に対応
 - コンセプトや仕様に変化を加えたバラエティ豊かな客室を導入
 - 最高級クラスの客室を整備し、富裕層の需要にも対応
 - 多様なニーズに対応する複数の飲食施設を宿泊施設内に導入
 - 滞在促進に寄与する付帯サービス（スパ・ジム等）の提供
- ◆日本有数の規模
 - 総客室数約2,500室を整備
 - 平均客室面積は約60～75㎡
 - 全客室のうち約20%以上がスイートルーム
 - スイートルームの平均客室面積は約105～135㎡

MGM大阪

- ◆様々な機能を備えるエンターテインメントホテル
 - ブランド：MGM
 - グレード：ラグジュアリー
 - ターゲット：ビジネス客からレジャー客まで、幅広い層の来訪者

MGM大阪ヴィラ

- ◆客室ごとに専属スタッフを配置するVIP向け最高級ホテル
 - ブランド：MGM
 - グレード：スーパー・ラグジュアリー
 - ターゲット：最もハイエンドの富裕層

MUSUBIホテル

- ◆幅広い層をターゲットとする多世代型アクアリゾートホテル
 - ブランド：新ブランド
 - グレード：アッパー・アップスケール
 - ターゲット：ファミリー客から富裕層まで最も幅広い来訪者

スマートなまちづくり（環境負荷低減等）

- ◆運営時における取組み（エネルギー関連、ICT技術の活用）
 - 効率的なエネルギー運用のためのエネルギー管理システムの導入
 - 太陽光等、クリーンで再生可能なエネルギーの導入
 - 高効率の設備機器及びエネルギー平準化設備等の先端技術の導入
 - ICT技術の活用による安全・安心、快適で楽しいスマートなまちづくりの推進
- ◆施設整備（建設）時における取組み
 - 再利用や再資源化しやすい建設資材の選定
 - 低公害車の活用、排出ガス対策建設機械の採用 等

ユニバーサルデザイン・多文化共生

多様な来訪者の様々なニーズに対応

- ◆多様な来訪者の受け入れ
 - 多言語でのサービス・案内・情報提供、多世代が楽しめる施設・プログラムの提供
- ◆ユニバーサルデザイン
 - 年齢、性別、国籍、文化、身体の状態等の違いにかかわらず、快適に時間を過ごすことができる施設計画・環境整備に取り組む
- ◆労働環境の整備、海外人材・障がい者等の多様な人材の受入れ
 - 多様な人材を受入れ、活躍できる労働環境や人事制度を構築

多文化的な雰囲気の創出

- ◆多様な文化への配慮、尊重による寛容と理解を促進するリゾート
 - 文化的・宗教的な習慣や伝統を実践できる環境の提供
 - 来訪者の文化的・宗教的祝日や伝統に対する従業員の理解を促進

フェアトレード

- ◆各種原材料の調達におけるフェアトレードへの配慮

来訪及び滞在寄与施設

◆ 来訪及び滞在寄与施設の概要

- 大阪 I Rにおけるエンターテインメントの中心となる施設を設置し、ビジネス客からファミリー層まであらゆる人が楽しみ、大阪 I Rの象徴となるような国際的なエンターテインメント拠点の形成をめざす。
- 飲食、物販等において、多彩なコンテンツとサービスを提供し、デスティネーションとしての大阪 I Rの国際競争力を高め、滞在中の来訪者の空間的・時間的つながりとなることで、I R全体の快適性や満足度を高める。

エンターテインメント施設

施設名称	種類	コンテンツ内容
夢洲シアター	劇場	- 世界的なアーティストによるコンサートや映画・音楽の授賞式に加えて、グローバルなコンテンツ展開を行うエンターテインメント企業や世界で活躍するクリエイティブなアーティスト・パフォーマー等とコラボレーションし、新しいエンターテインメントを世界に向けて発信 - 大阪・関西・日本における新たな才能の発掘と育成に取り組み、日本のエンターテイナーを世界に向けて発信していく舞台を形成
結びの庭等	オープンスペース イベント広場	- 水とみどりが広がる開放感ある景観、開けた空間を確保 - イベント等の開催によりにぎわいを創出、多様な体験を提供

飲食施設

施設名称	機能	コンテンツ内容
ローカルパートナーダイニング グローバルパートナーダイニング	飲食機能	国内外の有名シェフやレストランと連携した飲食施設を I R 区域内の各所に展開し、来訪者に独自性と創造性のある「食」の体験を提供
ジャズクラブ、サパークラブ バーアレ等のナイトエンターテインメント施設	飲食機能 ライブ・パフォーマンス機能	- 来訪者のナイトライフを充実させるエンターテインメント性に富んだ「食」の体験を提供 - ジャズクラブやサパークラブでは音楽やパフォーマンスと相まった特別な雰囲気を提供

物販施設

施設名称	機能	コンテンツ内容
Luxuryリテール	リテール機能	世界トップクラスのハイブランドをアジア有数の規模で集積させ、非日常的なショッピング体験を提供
その他リテール	リテール機能	大阪・関西の土産物や日用品等を取り扱い、来訪者の多様なニーズに対応

カジノ施設

◆ カジノ施設の配置及び機能

- 各顧客層（マス、プレミアム、V I P）の属性と嗜好に合わせたフロア配置
- カジノ施設への来訪者の利便性を考慮し、多様な飲食店を各所に配置

◆ カジノ施設の運営方針

- セキュリティ：入退場手続きから周辺警備まで総合的なセキュリティプランを導入
- 責任あるゲーミング：国内外の最新知見や最先端技術等のベストプラクティス導入
- 多様な顧客層を惹きつける国際的に魅力ある顧客体験の提供

地域経済の振興・地域社会への貢献

1. 地元産品の積極的な調達・発信、地域ブランディングの向上
◆地元企業からの積極的な調達 ◆関西ジャパンハウス（大阪・関西の伝統産業発信） ◆ジャパン・フードパビリオン（食文化体験、食材産地へのツーリズム） ◆地域ブランディングを支える環境整備（プロモーション支援、人材育成 等）
2. 中小企業・スタートアップ企業の支援
◆地域の金融機関と連携した、中小企業の I R との取引関係構築の支援 ◆ビジネスマッチング機会の創出（M I C E イベントの誘致 等）
3. イノベーション・新産業の創出支援
◆関西イノベーション・ラボ（イノベーション促進施設） ◆関西のベンチャーエコシステムの強化（ビジネス支援プログラムの誘致 等）
4. 送客等による地域振興
◆大阪・関西、広域への送客強化、周遊促進及び地域での消費喚起（会員ポイントプログラムや I C T 等の総合活用 等）
5. 質の高い雇用機会の提供、関西の人材基盤強化
◆女性、シニア、障がい者など多様な人材に対する柔軟な働き方や快適な労働環境等の提供 ◆高度なグローバル人材の育成（教育機関等と連携した人材育成プログラムの提供、継続的な職業訓練 等）
6. 地域社会と連携した地域経済振興
◆産官学連携による地域課題の解決と持続的な成長に資する取組みの推進
7. 夢洲及びベイエリア一体の活性化
◆夢洲全体のまちづくりを見据えたエリアマネジメントの展開 ◆舞洲・咲洲と連携したスポーツ振興の推進 ◆市内・空港等を結ぶ交通網の整備

附帯事業

- ◆ I R 区域北側護岸における係留施設等の整備・運営
- ◆ 関西国際空港におけるポートターミナルの再整備・運営
- ◆ 関西国際空港におけるリムジン利用者専用ラウンジの設置・運営
- ◆ 夢洲 1 区（グリーンテラスゾーン）における太陽光発電事業
- ◆ I R 区域外の施設や事業者との連携、教育機関等と連携した人材育成活動 等

カジノ事業収益の活用

- ◆各 I R 施設の修繕、提供コンテンツの更新・追加等
 - I R 施設の魅力や機能を維持・補完・増強し I R 区域の魅力を向上
- ◆ギャンブル等依存症対策
 - カジノ施設の利用に伴うギャンブル等依存症の発生、進行及び再発を防止するため、最先端の I C T 技術等と人と人とのふれあいを大切にする顧客サービスを組み合わせつつ、国内外の最新の知見・技術やベストプラクティス等を踏まえて依存防止対策を向上
- ◆治安・地域風俗環境対策
 - 時勢に応じた先進的な技術の導入努力に努め、犯罪の発生対策、善良の風俗及び清浄な風俗環境の保持及び青少年の健全育成に万全を尽くすために必要な体制を整備 等
- ◆大阪府・市が認定区域整備計画に関して行う施策への積極的協力
 - イベント協賛、有害影響排除措置への協力、災害等の緊急時のサポート 等

懸念事項対策（ギャンブル等依存症対策）

ギャンブル等依存症対策

- ◆ 大阪府・市と I R 事業者が互いに密接な連携協力を行い、依存症の発症・進行・再発の各段階に応じた防止・回復のための対策について、世界の先進事例に加え、大阪独自の対策をミックスした総合的かつシームレスな取組みを構築し、依存症対策のトップランナーをめざす
 - 大阪府・市は、普及啓発・相談支援体制・治療体制・切れ目のない回復支援体制の強化とともに、大阪独自の支援体制構築を推進
 - I R 事業者は、M G M の知見・ノウハウを最大限活かし、責任あるゲーミングの取組みを着実に実施

I R 事業者が実施する対策

- ◆ 責任あるゲーミングを着実に実施するための体制構築
 - 責任あるゲーミング専門部署の設置
 - 組織横断的に社内の主要部署で構成される責任あるゲーミング対策協議会や社外の提言機関であるギャンブル等依存症対策委員会との有機的連携
 - M G M において導入実績のある責任あるゲーミングに関する、顧客への啓発や従業員教育を含む包括的プログラムを、日本の実情に合わせて導入
- ◆ 厳格な入場管理・利用制限措置
 - 最先端の I C T 技術（生体認証等）の活用等によるカジノ施設の厳格な入退場管理の実施
 - 入場等回数制限措置並びに、本人及び家族等の申出による利用制限措置の実施 等
- ◆ 依存防止のために講じる措置
 - 24時間・365日利用可能な相談体制等の構築
 - 依存防止プログラムや相談機関等に関するリーフレット等の配備
 - 視認と I C T 技術を活用した、問題あるギャンブル行動の早期発見
 - 賭け金額や滞在時間の上限設定を可能にするプログラムの導入
 - ゲーミング教室等を通じた、安全なプレイの推進
 - レベルに応じた、予防啓発プログラム等に関する従業員教育の実施
 - 関係機関・団体や民間支援団体との連携体制の構築
 - 責任あるゲーミング・プログラムの国際会議の開催
 - 調査研究に必要な情報やデータ提供など、ギャンブル等依存症対策に関する研究への貢献
 - カジノ施設でのインターンシップの実施など、大阪における 専門人材育成への協力 等

大阪府・市が実施する対策

- ◆ 大阪独自の支援体制の構築
 - 悩みを抱える方へのワンストップの支援拠点として「（仮称）大阪依存症センター」設置
 - 関係機関と連携して府域全体の支援基盤を強化
-
- （仮称）大阪依存症センター（※1）
- 依存症対策の企画立案
- 調査・研究
- 普及啓発
- 人材確保
- 相談・医療・回復のワンストップ支援
- 医師
- 心理士
- 相談員
- 司法書士等（関係団体）
- 自助G
- 医学的支援
- 相談支援
- 連携体制構築
- 回復継続支援
- 連携
- 大阪府こころの健康総合センター
- 大阪精神医療センター
- 依存症総合支援センター
- 依存症治療・研究センター
- 大阪依存症包括支援拠点「OATIS」（※2）
- 精神保健福祉センター
- 保健所（中核市含む）
- 市町村
- 回復施設
- 自助グループ
- 民間支援団体
- 関係機関（※3）
- 訪問看護
- 専門医療機関
- 一般精神科医療機関
- ※1 機能は現時点での予定。今後ニーズ把握や関係機関等との調整の上で決定
- ※2 Osaka Addiction Treatment Inclusive Support
- ※3 福祉・司法・消費生活関係機関

- ◆ 普及啓発の強化
 - S N S ・街頭ビジョンを活用した通年度の広報・啓発、若年層向けの予防啓発
 - 依存症ポータルサイトの開設 等
- ◆ 相談支援体制の整備
 - 市町村への支援により、身近な場所で相談対応が受けられる体制を強化
 - 研修や事例検討会による相談窓口職員の知識・対応力向上 等
- ◆ 治療体制の整備
 - 医療機関職員に対する研修、治療が可能な医療機関の拡充
 - 大学や研究機関との連携による治療の充実 等
- ◆ 切れ目のない回復支援体制の整備
 - 大阪府依存症関連機関連携会議による好事例の共有や課題の検討
 - 関係機関・団体同士の情報共有・連携による切れ目のない回復支援体制の強化 等
- ◆ I R 事業者と連携して行う取組
 - カジノ利用者の行動データ等を活用したギャンブル等依存症研究の推進 等

治安・地域風俗環境対策

I R事業者が実施する対策

- ◆あらゆる来訪者の安全・安心を守り、地域全体の治安維持に貢献
 - カジノ施設及び I R 区域内の監視、警備
 - ・ 24時間・365日体制の総合防災センターを中核機能とし、防犯関連資格の保有者等を配置するほか、最新技術等を活用した警備システム等を導入
 - ・ 防犯カメラを一体的に管理するシステムを構築した上で、顔認証システム、画像解析システム等を用いて継続的な監視を実施 等
 - 犯罪の発生対策、善良の風俗及び清浄な風俗環境の保持
 - ・ 暴力団員等のカジノ施設への入場を禁止するため、暴力団員等に係るデータベースを整備し、入場者の本人特定事項と照合
 - ・ マネー・ローンダリング対策として、関係法令を遵守する内部管理体制を構築し、犯罪収益移転防止規程の作成、従業者の教育訓練等を実施 等
 - 青少年の健全育成
 - ・ 20歳未満の者のカジノ施設への入場禁止や20歳未満の者に対する勧誘の禁止等の措置、I R 区域内外（夢洲内）の巡回等を実施 等

大阪府・市が実施する対策

- ◆警察力の強化を図るとともに、治安・地域風俗環境対策を推進
 - 警察力の強化
 - ・ I R 開業に合わせて夢洲内に警察署、交番等の警察施設を設置
 - ・ I R 開業に向けて段階的に警察職員を増員（約340人）した上で、夢洲内の警察署等を含む大阪府警察の施設に適正配置
 - 治安・地域風俗環境対策
 - ・ 防犯環境の整備やパトロールの強化により、事件・事故の未然防止及び検挙活動を推進
 - ・ マネー・ローンダリング対策等の犯罪収益対策をはじめ、不法滞在者等の取締りなど、犯罪インフラの撲滅に向けた検挙活動を積極的に推進
 - ・ 非行防止・犯罪被害防止教室の開催など青少年の健全育成のための対策に加え、I R 区域や周辺商業施設等における夜間巡回、補導活動など青少年を保護するための対策を推進 等

危機管理・防災対策

I R事業者が実施する対策

- ◆来訪者・従業員の安全を第一に考えた施設設計と運営体制の構築
 - 危機管理体制の構築、夢洲島内含めた関係者との連携
 - 高い耐震性能の確保、3日間インフラ機能の維持が可能な自立電源の確保
 - 津波や高潮に備えた建築設計（高い床レベル、重要設備機械室の地上階配置 等）
 - 災害時の監視機能の適切な集散化（総合防災センター・エリア防災センターの設置）
 - 防災対策計画の策定・実施（初動対応・避難計画等策定、研修実施 等）
 - 情報発信強化（ピクトグラム・多言語の採用、SNS等からの積極的な発信 等）
 - 帰宅困難者の受入・支援（3日間以上の備蓄保管、要配慮者に応じた対応 等）
 - サイバーセキュリティの確保（監視プログラムの導入・監視 等）
 - テロ対策（テロ抑止効果を考慮した建物構造、警察等との連携、警戒レベル設定・訓練 等）

大阪府・市が実施する対策

- ◆夢洲における安心・安全なまちの実現
 - 地盤沈下対策（50年後の地盤高でも想定以上の津波や高潮に対応）
 - 夢洲内へのアクセスルートとなる橋梁やトンネルの耐震性確保
 - 液状化対策、越波対策（南側護岸における法面保護及び胸壁設置）
 - 夢洲内への消防拠点設置、無電柱化
 - 防災訓練等への参画・支援、災害対策活動を行う組織及び動員体制の整備
 - 情報発信（SNS、防災無線等の活用）、関係機関との連携による支援 等

感染症対策

- ◆健康と安全を最優先、安全な事業継続と運営再開の取組み
 - 冷暖房空調制御システムを導入し、適切な換気を実施
 - 時勢に応じたテクノロジーの活用 等
 - 感染症対策用品を適切に確保・配備
 - 業務プロセスをマニュアル化し、全従業員に対する継続的なトレーニングを実施
 - WebサイトやSNS等による感染症対策に関する情報発信
 - 感染拡大フェーズにおいては、来場抑制等の必要な対応、安全計画やガイドラインの策定等を行い、計画的かつ安心・安全な形での運営再開を図る

I R 区域整備による経済的社会的効果

観光への効果	
I R 区域への来訪者数	約2,000万人/年 国内：約1,400万人/年（約70%） 国外：約600万人/年（約30%）
国際会議の開催件数	約485件/年 （ICCA基準 9 件）
国際的規模の展示会等の開催回数	約46件/年 （ISO基準44件）
送客施設を活用した旅行者数	約4.3万人/年

地域経済への効果	
初期投資額	約 1 兆2,700億円
経済波及効果（建設時）※	約 1 兆9,100億円
経済波及効果（運営）※	約 1 兆1,400億円/年
雇用創出効果（建設時）※	約14.0万人
雇用創出効果（運営）※	約9.3万人/年
I R 区域来訪者による I R 区域滞在中の支出金額	約6,600億円/年
地元調達額（建設時）※	約1兆700億円
地元調達額（運営）※	約2,600億円/年
雇用者数（I R 施設）	約1.5万人

※近畿圏

効果を最大化するための主な取り組み

M I C E 事業

◆ M I C E の開催による産業強化

➢ 大阪・関西が強みを有する10の産業領域を設定し、M G Mの持つノウハウを活かして領域ごとに年間 5 件程度の国際的規模の展示会等の開催をめざす

◆ M I C E 施設へのイノベーション促進施設の設置

➢ イノベーション促進施設の設置により、ビジネス支援プログラムの誘致やビジネス交流機会の提供を行い、関西のベンチャーエコシステムの強化につなげることをめざす

◆ 戦略的マーケティング

➢ 大阪観光局や地域のD M O等との緊密な連携、営業情報の提供、シティプロモーションの積極的な支援等、M I C E デスティネーションとしての大阪・関西の振興に継続的に取り組む

送客機能

◆ 送客施設の設置・運営

➢ 来訪者に対する日本観光への関心・興味の喚起、旅行の企画・提案・予約・手配の効率化、大阪 I R から広域への利便性の高い交通アクセスの構築等の工夫を行う

旅行消費

◆ ハイクオリティの施設やコンテンツの創出と都市魅力の向上

➢ 高品質の宿泊施設、比類ないエンターテイメント、上質な飲食施設、スポーツイベント等の魅力的なコンテンツを誘致・創出する

➢ 地域のD M O等の観光関係者と連携し、新たな観光ルートや観光資源の発掘・磨き上げを行い、都市の魅力・ブランド力を向上する

地域経済

◆ 地元産品の調達、地元企業・中小企業の支援（ビジネスマッチング等）

➢ 地域金融機関との連携による地元企業・中小企業への資金・情報面での支援の提供を通じて、I R との取引関係の裾野を広げるとともに、I R による継続的な調達を通じて、地元企業との持続的な取引を行い、その発展に寄与する

◆ 地域ブランディングの向上

➢ 大阪・関西の豊かな食文化の紹介、消費促進及び産業団体や人材育成機関との連携を通じて、食に関するハイエンドのツーリズムや人材育成に取り組む

納付金・入場料等の見込み額及び使途

納付金等の収入見込額（大阪府・大阪市合計）

◆約1,060億円/年（納付金：約740億円/年、入場料：約320億円/年）
⇒ 大阪府・大阪市で均等配分（大阪府：約530億円/年、大阪市：約530億円/年）

※上記のほか、大阪府・市の税収見込み：約140億円/年（大阪府：約50億円、大阪市：約90億円）

納付金・入場料の使途

＜必要経費＞

使 途	毎年の 必要経費
ギャンブル等依存症対策【大阪府・大阪市】 （OATISを中心とした新規・拡充事業）	約14億円
警察力強化【大阪府】 〔 夢洲内の警察署の設置・運営、 府内の警察職員増員等（約340人体制） 〕	約33億円
夢洲まちづくり関連インフラ【大阪市】 （ I R 立地に関連して必要な事業の維持管理）	約 4 億円
消防力強化【大阪市】 （夢洲消防拠点の設置・運営〔約40人体制〕）	約 4 億円
合 計	約55億円

＜その他一般施策＞

- 夢洲及び夢洲周辺の魅力向上
〔 国際観光拠点にふさわしい水準の高い整備など、夢洲
等の魅力向上に資する施策 〕
- 観光の振興に関する施策
（賑わいの創出や周遊・観光都市の実現 等）
- 地域経済の振興に関する施策
- 社会福祉の増進に関する施策
（子育て、教育環境の充実、健康・医療、住民の暮らしを
守る施策 等）
- 文化芸術の振興に関する施策
- 大阪府・大阪市の財政への貢献



府民・市民の暮らしの充実、次の成長に向けて投資

◆不測の事態等に備えて、納付金等の一部を基金に積立

I R 区域の整備の推進

周辺地域の開発・整備

◆夢洲における国際観光拠点の形成

- 夢洲まちづくり構想、夢洲まちづくり基本方針を策定
- 夢洲中央部に新たな国際観光拠点を形成

交通環境の改善

◆夢洲地区への訪問者増加等に対応したアクセス整備

- 大阪メトロ中央線の延伸（南ルート（北港テクノポート線）及び新駅）
- 外周道路・交通広場の整備
- 高架道路の整備（観光・物流動線の分離）
- 此花大橋・夢舞大橋の車線数拡張
- 海上アクセス拠点として浮栈橋の整備
- 将来的には、鉄道北ルートや淀川左岸線 2 期等による広域ネットワークの更なる充実を想定

【イメージパース：夢洲の道路インフラ整備イメージ】



滞在型観光の実現

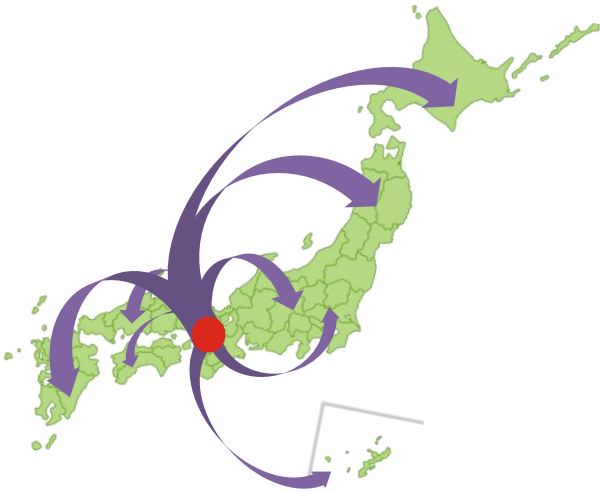
M I C E 誘致

◆オール大阪でのM I C E 推進

- 新たなM I C E 推進に係る戦略に基づき、大阪府・大阪市・経済団体・大阪観光局等が一体となり、I R 事業者とも連携しながら、戦略的な誘致を推進

◆複合M I C E 施設の整備による誘致強化

- 新たに世界規模のM I C E や都市格向上につながる政府系会議等、経済波及効果が高く見込まれるM I C E を誘致・開催
- 各主要M I C E 拠点の役割分担及び連携



インバウンドの促進

◆広域的な観光ルートの設定

- I R 事業者や各地の自治体、D M O 等との連携を図り、世界を魅了する上質な広域観光ルートを開発
- 世界と日本各地をつなぐ交流のハブとして、観光客を大阪府域や関西・西日本・日本各地へと周遊

◆観光の魅力に関するプロモーション

- 国内外観光客のニーズ・ターゲットに応じた戦略的プロモーション等の実施
- I R のショーケース機能も活用し、食・歴史・文化芸術・エンターテインメント等の大阪の強みを活かした魅力を世界に発信

IR誘致に向けた地域の合意形成

区域整備計画案に係る公聴会・府民意見等の募集

◆公聴会

- 4 回開催し、40 名が公述

◆府民意見等の募集

- 30 日間募集し、537 名（団体含む）・1,497 件の意見等が提出

セミナー・出前講座

◆対象ごとの興味・関心に応じた情報発信

内 容	開催数（計）	参加者数（計）
大阪府民を対象としたセミナー	30 回	1,978 人
地元企業を対象としたセミナー	5 回	562 人
経済団体等を対象とした出前講座	37 回	1,369 人
大学を対象とした出前講座	82 回	6,463 人

広報ツール

◆多様な広報ツールを活用した情報発信

- パンフレット、リーフレット
- 動画
- 府政だより、タブロイド判広報紙（新聞折込）

IR推進会議

◆大阪IRの推進に向けて幅広く協議・検討

- 設置年月日：平成29年 2 月23日
- 構成員：外部有識者、経済界 等
- 開催実績：14回
- 検討事項：大阪 I R が有すべき機能・施設や懸念事項 等

公正・公平な公募手続き

これまでの経緯

経 過	内 容
令和元年11月	・ 実施方針(案)の公表
令和元年12月	・ 募集要項の公表
令和 2 年 3 月	・ 実施方針(案)及び募集要項の修正（スケジュール等）
令和 3 年 3 月	・ 実施方針の確定及び募集要項の修正
令和 3 年 7 月	・ 提案審査書類の受付
令和 3 年 9 月	・ 大阪府市IR事業者選定委員会より審査講評を受領 ・ 選定に関する大阪府公安委員会、大阪市への協議 ・ M G M・オリックス コンソーシアムを事業予定者として選定

民間事業者との接触ルール

◆公平性・公正性及び透明性の確保を徹底

- 既存ルールに加え、「I R 推進局における事業者対応等指針」を策定
- 選定委員会の委員等に対する厳格な利益相反制限
- 応募者に、大阪府・市の職員等及び選定委員会の委員等に対する働きかけの禁止等の制限

<留意事項>

- ・ 各 I R 施設の名称は仮称
- ・ 各種数値は概数
- ・ 特に注記がない限り、各種数値は開業 3 年目期の計画値又は想定値
- ・ 施設規模は施設計画上の目安となる暫定計画値。夢洲特有の地盤状況への対応等、設計・施工過程における計画調整により、I R 整備法令等に定める基準・要件を満たした上で、大阪府・市及び I R 事業者の協議により増減する可能性
- ・ 収支計画・資金計画、投資金額、カジノ事業の収益の活用、観光・地域経済への効果等は、暫定計画値等に基づいて試算した現時点での計画値又は想定値
- ・ イメージパースは現時点での想定イメージであり今後の計画調整等により変更することがある。また、参考掲載しているものであり、大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画には含まれない。